

# CA Chorus™

## アップグレードガイド

バージョン 03.0.00、第 2 版



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、  
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

## CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

## CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA ACF2™ for z/OS (CA ACF2)
- CA Datacom®/AD (CA Datacom/AD)
- CA Detector® for DB2 for z/OS (CA Detector)
- CA Chorus™
- CA Chorus™ for DB2 Database Management
- CA Chorus™ for Security and Compliance Management
- CA Chorus™ for Storage Management
- CA Chorus™ Infrastructure Management for Networks and Systems
- CA Chorus™ Software Manager
- CA SYSVIEW®
- CA Top Secret® for z/OS (CA Top Secret)
- CA Vantage™ Storage Resource Manager (CA Vantage)

## マニュアルの変更点

以下のドキュメントの更新は、本書の第1版以降に行われたものです。

- [リリース 2.5 からバージョン 3.0 にアップグレードする方法 \(P. 9\)](#) - アップグレードに新規環境のインストールが必要であることを強調する要約パラグラフを追加しました。
- [リリース 2.5 からバージョン 3.0 へのアップグレード \(P. 11\)](#) - 最初の4つの手順を、ユーザが「[サイト準備ガイド](#)」の各手順および「[インストールガイド](#)」のインストールおよび展開手順をまず実行する必要があることを明示的に示すように更新しました。
- [CA Chorus for Security and Compliance Management のアップグレード \(P. 17\)](#) - 手順 1 で E1MI0014 動作を明確にしました。
- ディシプリンのアップグレードに関するトピック - インストールと展開は「[リリース 2.5 からバージョン 3.0 へのアップグレード \(P. 11\)](#)」で扱われるため、手順を設定から開始するように明確化しました。



# 目次

---

<b>第 1 章: 製品のアップグレード</b>	<b>9</b>
リリース 2.5 からバージョン 3.0 にアップグレードする方法.....	9
リリース 2.5 からバージョン 3.0 へのアップグレード .....	11
CA Chorus for DB2 Database Management のアップグレード.....	16
CA Chorus for Security and Compliance Management のアップグレード.....	17
CA Chorus for Storage Management のアップグレード.....	19



# 第 1 章: 製品のアップグレード

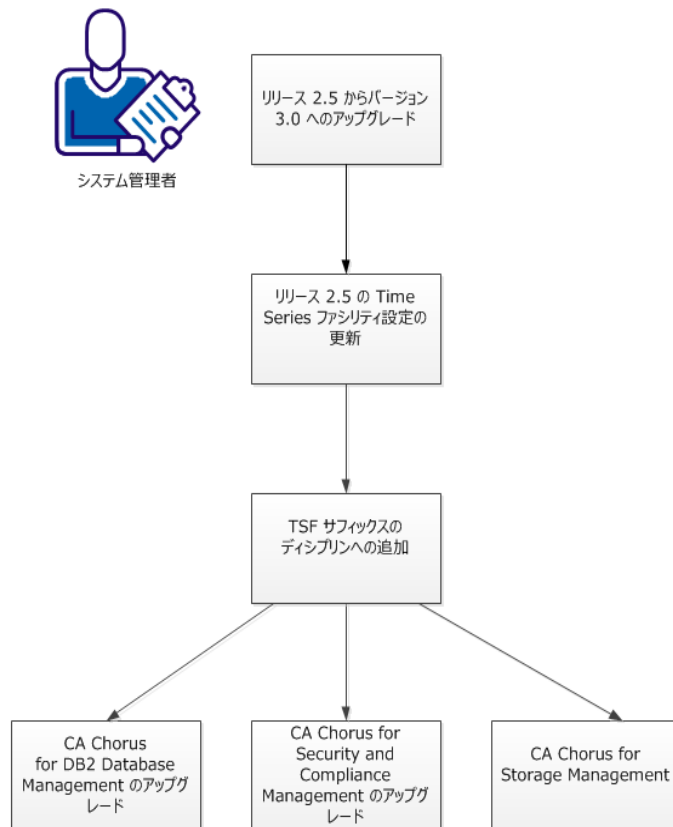
## リリース 2.5 からバージョン 3.0 にアップグレードする方法

バージョン 3.0 はリリース 2.5 のみからのアップグレードをサポートしています。

アップグレードするには、新しい環境をインストールする必要があります。すなわち、「[サイト準備ガイド](#)」（プラットフォームとディシプリン）および「[インストールガイド](#)」の手順を完了する必要があります。その後、設定の最終処理を行い、「[アップグレードガイド](#)」の手順に基づいてデータをマイグレートします。

複数のリリースを同時に実行する予定の場合は、「[リリース 2.5 からバージョン 3.0 へのアップグレード \(P. 11\)](#)」の手順 5 を参照してください。

CA Chorus のリリース 2.5 からバージョン 3.0 へのアップグレード方法



システムをアップグレードするには、以下のタスクを完了します。

1. [リリース 2.5 からバージョン 3.0 へのアップグレード](#) (P. 11)。
2. [リリース 2.5 TSF 設定の更新](#) (P. 15)。
3. [TSF サフィックスのディシプリンへの追加](#) (P. 16)。
4. 適用可能なディシプリンのアップグレード:
  - [CA Chorus for DB2 Database Management のアップグレード](#) (P. 16)
  - [CA Chorus for Security and Compliance Management のアップグレード](#) (P. 17)
  - [CA Chorus for Storage Management のアップグレード](#) (P. 19)

## リリース 2.5 からバージョン 3.0 へのアップグレード

リリース 2.5 システム データをバージョン 3.0 にマイグレートするには、リリースをサイドバイサイドでインストールします。バージョン 3.0 にアップグレードするには、以下のプロシージャを使用します。

**注:** サーバスタートアップ サービスは、リリース 2.5 で追加されるノート をバージョン 3.0 にマイグレートします。

次の手順に従ってください:

1. 「*CA Chorus サイト準備ガイド*」に示される要件チェックおよび準備手順を完了します。
2. 「*サイト準備ガイド*」の該当するディシプリンに示される要件チェックおよび準備手順を完了します。
3. プラットフォームおよびディシプリンを異なる高レベル修飾子および USS パス名で新規 CSI にインストールします。この手順に関しては、「*インストールガイド*」を参照してください。
4. 「*インストールガイド*」の手順に従って製品を展開します。

**注:** このトピックの残りでは、プラットフォームのアップグレード手順について説明します。このトピックの最後に、特別な設定ノートおよびアップグレード手順に対する適切なディシプリン トピックが表示されます。

5. リリース 2.5 およびバージョン 3.0 USS ファイル システムがマウントされていることを確認します。TSO ISHELL または CA SYSVIEW を使用して、CA Chorus がインストールされているパスにディレクトリがマウントされていることを確認します。
6. 「*インストールガイド*」のバージョン 3.0 設定手順を完了します。各バージョンの同時実行を計画する場合は、各バージョンで以下のコンポーネントに別々の値を使用します。
  - JBoss ポート番号
  - スターティッドタスク名

- スターティッドタスクに関連付けられているユーザ ID およびグループ値。

**注:** 両方のバージョンのデフォルトは、それぞれ CHORADM と CHORGRP です。設定中に、これらの値は *chorus\_runtime\_hlq.CETJJCL* 内の ETJI0095 メンバで指定されます。リリース 2.5 では、セキュリティセットアップジョブは ETJI0095 と命名されます。ETJI095x はバージョン 3.0 名です。x はセキュリティ製品 (CA ACF2 に対しては A、CA Top Secret に対しては T、および IBM RACF に対しては R) を示します。

- MUF 名
- Time Series 機能 (TSF) サフィックスおよびポート値。

7. 準備ワークシートを使用して、セキュリティ コマンドおよび設定要件をすべて確認します。CHORADM ユーザおよび CA Chorus にログインしているすべてのユーザに適切な権限があることを確認します。
8. バージョン 3.0 がインストールされているシステム上で *chorus\_30\_runtime\_hlq.CETJJCL* の FTPH2DB ジョブを実行して、リリース 2.5 データベース ファイルをバージョン 3.0 にマイグレート (コピー) します。

**注:** このジョブは FTP を使用するため、システム間または 1 つのシステム上でコピーを行うことができます。

**重要:** このジョブを実行するユーザは、少なくともリリース 2.5 USS ファイルシステムへの読み取りアクセスを持っている必要があります。このユーザにはまた、バージョン 3.0 USS ファイルシステムへのスーパーユーザ (su) 権限が必要です。いずれかのリリース レベルでアクティブな製品でこのジョブを実行しないでください。

9. 以下のタスクを完了して、保存された TSF データをバージョン 2.5 からバージョン 3.0 にマイグレートします。
  - a. *chorus\_2.5\_runtime\_hlq.CETJJCL* の CHTSDBBK ジョブを、使用しているリリース 2.5 インストールに対して実行し、TSF データベースのバックアップバージョンを作成します。

**注:** このジョブの実行時に、リリース 2.5 CHORMUF スターティッドタスクがアクティブになっている必要があります。

- b. `chorus_30_runtime_hlq.CETJJCL` で、使用しているバージョン 3.0 インストールに対して `CHTSDBLD` ジョブを実行し、リリース 2.5 からのバックアップされた TSF データをロードします。

**重要:** このジョブを実行する前に `TSF4003B` バックアップデータセット DD を更新して、前の手順でリリース 2.5 `CHTSDBBK` ジョブを実行して作成された名前を使用します。

**注:** このジョブの実行時に、バージョン 3.0 `CHORMUF` スターテッドタスクがアクティブになっている必要があります。

**注:** TSF ジョブの詳細については、「*Administration Guide*」を参照してください。

10. リリース 2.5 のユーザがアップロードしたドキュメントおよびクローラによって作成された Web サイトインデックスをバージョン 3.0 にマイグレート (コピー) します。

**注:** これらのジョブでは FTP を使用するため、システム間または 1 つのシステム上でコピーを行うことができます。

**重要:** これらのジョブを実行するユーザは、リリース 2.5 に対する読み取りおよび書き込みアクセスおよびバージョン 3.0 ファイルシステムへのスーパーユーザ (`su`) 権限を持つ必要があります。

- a. リリース 2.5 がインストールされているシステム上で、`chorus_30_runtime_hlq.CETJJCL` の `FTPDOC1` ジョブを実行します。このジョブは、マイグレーションが必要なファイルを圧縮します。
- b. バージョン 3.0 がインストールされているシステム上で、`chorus_30_runtime_hlq.CETJJCL` の `FTPDOC2` ジョブを実行します。このジョブは、以下のタスクを実行します。
- ターゲットディレクトリを作成します。
  - `zip` ファイルを前の手順のリモートまたはローカルシステムから FTP 転送し、コピーされたファイルを解凍します。
  - コピーされたユーザアップロードドキュメントを再度インデックス化します。インデックスは、`INSTALL_HOME/userdoc/mfui/index/user/upload/index` で作成されます。

- c. (オプション) Knowledge Center でラテンアルファベット以外の言語の Unicode Web サイトが以前にインデックス化されている場合は、バージョン 3.0 へのアップグレード後に、再度それらをインデックス化します。

注: Web サイトのインデックス化の詳細については、「*Product Guide*」を参照してください。

- 11. 各バージョンの同時実行を計画している場合は、各ディシプリンに対して各 TSF サフィックスを一意に識別します。以下のオプションのいずれかを使用します。
  - ディシプリンが新規データをリリース 2.5 およびバージョン 3.0 にフィードするように計画している場合は、TSF およびディシプリンの設定を以下のように更新します。
    - [リリース 2.5 の TSF 設定](#) (P. 15) を更新して、サフィックスを変更します。
    - [ディシプリンを更新して、サフィックスを追加します](#) (P. 16)。
  - ディシプリンが新規データをバージョン 3.0 のみにフィードするように計画している場合は、[リリース 2.5 の TSF 設定を更新](#) (P. 15) して、サフィックスを変更します。

注: デフォルトでは、ディシプリンと TSF は PROD のサフィックスを使用します。パラメータは設定変更できませんが、オーバーライドはできます。

- 12. 「ディシプリンのアップグレード」の該当する手順を実行することでアップグレードを確定します。

## リリース 2.5 Time Series 機能設定の更新

この手順を使用して、リリース 2.5 Time Series 機能 (TSF) 設定を更新します。

**注:** これらの手順では、バージョン 3.0 が PROD サフィックスを使用し、リリース 2.5 が PROD 以外の値に変更されることを想定しています。たとえば、O は「古い」を表しています。または、リリース 2.5 を PROD として保持し、バージョン 3.0 N を新規作成することも可能です。ただし、バージョン 3.0 を PROD 以外の値に変更するには、リリース 2.5 で新規データを格納するかどうかに関わらず、サフィックスを追加するためにディンプリンを更新する必要があります。

次の手順に従ってください:

1. TSFSUFFIX=*c|n* パラメータを、*chorus\_2.5\_runtime\_hlq.CETJOPTN* の TSFPARMS メンバに追加します。

このステートメントは、TSF 領域用に 1 文字のアルファベット (c) または数値 (n) の識別子を指定します。有効な値は、A から Z まで、または 0 から 9 までです。

2. export TSFII=*'c|n'* パラメータを *chorus\_2.5\_runtime\_hlq.CETJOPTN* の ENVETJ メンバに追加します。

このステートメントは、JBoss 環境設定の TSF 領域用に 1 文字のアルファベット (c) または数値 (n) の識別子を指定します。この値は、TSFSUFFIX に対して指定される値に一致する必要があります。値は一重引用符で囲む必要があります。

3. リリース 2.5 の TSF リレーを実行する場合は、TSFSUFFIX=*c|n* パラメータを *chorus\_2.5\_runtime\_hlq.CETJOPTN* の TSFRPRMS メンバに追加します。
4. リリース 2.5 CHORTSF、CHORJBOS および CHORTSFR スターティッドタスクを停止して再起動することで、変更をアクティブにします。

### TSF サフィックスのディシプリンへの追加

ディシプリンを更新し、TSF サフィックスを追加して、データを複数の TSF インスタンスにフィードするには、以下のタスクを完了します。

- CA Chorus for DB2 Database Management については、TPDTFEED スターテッドタスクを更新して、データを追加インスタンスに送信します。

注: TPDTFEED の更新の詳細については、「*CA Chorus Manual Configuration Guide*」を参照してください。

- CA Chorus for Security and Compliance Management については、CA ACF2 内の TSFSUFF パラメータまたは CA Top Secret 内の CHORUSTSFSX パラメータを更新して、データを追加インスタンスへ送信します。

注: これらのパラメータの詳細については、それぞれ「*CA ACF2 Administration Guide*」または「*CA Top Secret Control Options Guide*」を参照してください。

- CA Chorus for Storage Management については、CA Vantage の CHTSFSUF パラメータを更新して、データを追加インスタンスへ送信します。

注: CHTSFSUF の詳細については、「*Systems Programming Guide*」を参照してください。

### CA Chorus for DB2 Database Management のアップグレード

バージョン 2.5 システム データをバージョン 3.0 にマイグレートするには、リリースをサイドバイサイドでインストールします。バージョン 3.0 にアップグレードするには、以下のプロシージャを使用します。

次の手順に従ってください:

1. CA Chorus for DB2 Database Management バージョン 3.0 設定を完了します。各バージョンの同時実行を計画している場合は、各バージョンで Xnet ポートに対して異なる値を使用します。
2. `your_chorus_hlq.CE3KPARMM` のバージョン 3.0 E3KCFG10 メンバにリリース 2.5 `db2tools.cfg` ファイルの内容を入力します。このファイルはリリース 2.5 のデフォルト設定では、`/cai/cetjr2m5/config` にあります。リリース 2.5 定義を参照するには、`your_chorusdba_hlq.CE3KJCL` で E3KI0010 を使用します。

3. [Alerts] モジュールに表示されるアラートの数を制限するには、バージョン 3.0 で [Alerts] ダイアログ ボックスからの [Filter] オプションを使用します。前のリリースでは、モジュール設定中にアラートを制限しました。
4. (オプション) データを複数の Time Series 機能 (TSF) インスタンスにフィードするには、追加インスタンスにデータを送信するように TPDTFEED スターティッドタスクを更新します。

注: 複数の TSF 領域へのデータにシードする詳細については、「[CA Chorus for DB2 Database Management サイト準備ガイド](#)」を参照してください。リリース 2.5 TSF データをマイグレートする詳細については、「[リリース 2.5 からバージョン 3.0 にアップグレードする方法 \(P. 9\)](#)」を参照してください。

アップグレードが完了しました。

## CA Chorus for Security and Compliance Management のアップグレード

バージョン 2.5 システム データをバージョン 3.0 にマイグレートするには、リリースをサイドバイサイドでインストールします。バージョン 3.0 にアップグレードするには、以下のプロシージャを使用します。

次の手順に従ってください:

1. CA Chorus for Security and Compliance Management のバージョン 3.0 設定を完了します。

**重要:** バージョン 3.0 での E1MI0010 ジョブの実行の前に、`your_chorus_hlq.CE1MOPTV` の SECDBCFCG メンバに入力します。このメンバには、バージョン 3.0 で接続したいリリース 2.5 からの各 Compliance Information Analysis (CIA) および CA Compliance Manager データベースの定義が含まれます。 `your_chorussec_v2.5_hlq.CE1MJCL` の E1MI0010 を使用して、リリース 2.5 の定義を参照します。

注: デフォルト値が E1MI0014 で変わらなかった (つまり、LDAP および CMGR ホスト/ポート/サフィックスが同じ) 場合は、新規 3.0 USS ディレクトリに 2.5 の設定ファイル (`acf2_config.xml`、`cmgr_config.xml`、`tss_config.xml`) をコピーします。値が変わった場合は、更新された USS ランタイム ディレクトリおよび設定情報で E1MI0014 を実行します。

### 2. 以下の CIA 設定タスクを完了します。

- リリース 2.5 およびバージョン 3.0 で CIA に DB2 を使用している場合、1つの CIA データベースのみがサポートされます。追加の変更は必要ありません。
- リリース 2.5 およびバージョン 3.0 の CA Datacom/AD で CIA に DB2 を使用している場合、CIA CA Datacom/AD データベースに対して新規の変換とロードが必要です。
  - CIA DB2 リポジトリに対して IBM DB2 UNLOAD ユーティリティを実行し、DB2 ロード形式でレコードが含まれる出力アンロードデータセットを作成します。
  - SAMPJCL ジョブ CIALOADC をカスタマイズし、サブミットします。

注: CIA データのマイグレートの詳細については、「*CA ACF2 Compliance Information Analysis Guide*」または「*CA Top Secret Compliance Information Analysis Guide*」を参照してください。

### 3. 以下の CA Compliance Manager タスクを完了します。

- リリース 2.5 およびバージョン 3.0 で CA Compliance Manager Monitor データに DB2 を使用している場合は、SAMPJCL ジョブ CMGRIUNL (Change Monitor DB2 Conversion ユーティリティ) をカスタマイズして DB2 スキーマ変更をピックアップします。このジョブは監視データベースを変換および再ロードします。
- リリース 2.5 およびバージョン 3.0 の CA Datacom/AD で CA Compliance Manager に DB2 を使用している場合、以下を実行します。
  - a. IBM DB2 UNLOAD ユーティリティをウェアハウス、データ マート、および監視に対して実行し、DB2 ロード形式のレコードを含む出力ロードデータセットを作成します。
  - b. 以下のように SAMPJCL ジョブをカスタマイズおよびサブミットして、ウェアハウス、データ マートをマイグレートし、ロードされないデータを監視します。

\* CMGRDDCM (ウェアハウスおよびデータ マート CA Datacom/AD 変換ユーティリティ)

\* CMGRCDMU (監視データ マイグレーション変更ユーティリティ)

- DB2 および CA Datacom/AD の間のデータを分割している場合、必要な設定手順については「*CA Compliance Manager Implementation Guide*」を参照してください。

注: これらの CA Compliance Manager ジョブおよび必要な追加の設定手順の詳細については、「*CA Compliance Manager Implementation Guide*」を参照してください。 CDT9PMOD ジョブを使用してポリシーデータベースを変換します。

注: ポリシーデータベースの変換または CA Datacom/AD の使用の詳細に関しては、「*CA LDAP Server Product Guide*」を参照してください。

4. 複数の TSF インスタンスへのデータのフィードを計画している場合、CA ACF2 内の TSFSUFF パラメータまたは CA Top Secret 内の CHORUSTSFSX パラメータを更新して、追加のインスタンスにデータを送信します。

注: これらのパラメータの詳細については、それぞれ「*CA ACF2 Administration Guide*」または「*CA Top Secret Control Options Guide*」を参照してください。リリース 2.5 TSF データをマイグレートする詳細については、「[リリース 2.5 からバージョン 3.0 にアップグレードする方法 \(P. 9\)](#)」を参照してください。

アップグレードが完了しました。

## CA Chorus for Storage Management のアップグレード

バージョン 2.5 システム データをバージョン 3.0 にマイグレートするには、リリースをサイドバイサイドでインストールします。バージョン 3.0 にアップグレードするには、以下のプロシージャを使用します。

次の手順に従ってください:

1. 以下のストレージディシプリン設定タスクを完了します。
  - a. `your_chorusstor_hlq.CE4HJCL` で E4HI006、E4HI0007、E4HI0008 および E4HI0009 ジョブを実行します。
  - b. `your_chorusstor_hlq.CE4HJCL` で E4HDUPDT ジョブを実行します。このジョブは、以下のタスクを実行します。
    - リリース 2.5 Web Client Derby データベース (Quick Links) を CA Chorus バージョン 3.0 環境にコピーします。
    - CA Chorus リリース 2.5 設定を使用して、JBoss Derby データベースブートストラップ暗号化パスワードを事前設定します。

- *your\_chorusstor\_hlq.CE4HJCL* 内の E4HI0010 JCL メンバを、コントロールステートメントおよび CA Chorus リリース 2.5 環境からの情報で更新します。このジョブは、E4HJBCRD ジョブカードステートメントも追加します。
  - CA Vantage リリース 2.5 設定をバージョン 3.0 (ストレージディシプリン設定) にコピーします。
- c. *your\_chorusstor\_hlq.CE4HJCL* で E4HI0010 ジョブを変更なしに実行し、単一 CA Vantage ホストを設定します。複数の CA Vantage ホストを追加するには、メンバで説明されているとおりに E4HI0010 を編集し、サブミットします。
  - d. *your\_chorusstor\_hlq.CE4HJCL* の E4HI0011 Cost Analysis 設定ジョブをメンバで説明されているとおりに編集し、サブミットします。
2. (オプション) 複数の TSF インスタンスにデータをフィードするには、追加インスタンスにデータを送信するように CA Vantage の CHTSFSUF パラメータを更新します。
- 注: CHTSFSUF パラメータの詳細については、「*CA Vantage 設定ガイド*」を参照してください。リリース 2.5 TSF データをマイグレートする詳細については、「[リリース 2.5 からバージョン 3.0 にアップグレードする方法 \(P. 9\)](#)」を参照してください。
3. JBoss STC を再起動して変更をアクティブにします。  
アップグレードが完了しました。